

新規協会会員のご紹介

世田谷まちなか観光交流協会に、新しい仲間が加わりました！

<公益財団法人大宅壮一文庫>をご紹介します。



「雑誌の宝庫」で
思い出たどるひと時を

公益財団法人 おおやそういち 大宅壮一文庫

公益財団法人大宅壮一文庫です。世田谷区八幡山で日本初の雑誌専門図書館「大宅壮一文庫」を運営しております。

2025年4月、世田谷まちなか観光交流協会に正会員として参加させていただきました。どうぞよろしく願いいたします。

開館から半世紀余 雑誌80万冊、DB機能も

「青春時代にあこがれたスターの当時の姿に触れたい」

「かつてのファッションや流行を思い出したい」

ふと、そんな思いを抱いたことはございませんか？ そうした時にお役に立つのが大宅文庫です。



当文庫のルーツは、その名の通り大宅壮一（1900～1970）です＝写真⑤＝。大宅は太平洋戦争末期に八幡山に居を移し、戦後は「一億総白痴化」「ロコミ」などの鋭い警句で「マスコミの帝王」の異名をほしいままにした社会評論家です。

その大宅の雑誌コレクションを引き継ぎ、妻・昌まさの努力で出版社など国内各界の支援を得て1971年に開館しました。25年3月現在、明治期以降150年に及ぶ1万3,600誌、計80万冊余の大衆・娯楽・週刊誌などを収蔵し、国内はおろか世界的にも他に類例を見ない雑誌専門館として半世紀余の歩みを刻んでいます。「知の巨人」と言われた立花隆氏は生前、「世界に誇れる図書館」と激賞したのはよく知られています。

現在の理事長は夫妻の三女で評論家の大宅映子（写真⑥）です。





貴重な雑誌群で埋まる大宅文庫の書庫



収蔵雑誌の一部と DB 検索機能



↑ ㊦国内初の雑誌と言われる慶應3(1867)年の「西洋雑誌」㊧明治10(1877)年創刊の初の週刊誌『團圓珍聞』㊨同7(1874)年に発行された初の総合雑誌の『明六雑誌』。いずれも大宅文庫が復刻版を収蔵、手に取って読むことができる

収蔵数のすごさと併せ、あるいはそれ以上に社会から高い評価を得ているのが雑誌記事の索引データと検索機能です。

当文庫は歴代の主要雑誌について専任の職員が1冊ごとに丹念に読み込み、

記事の内容を索引化してきました。地道な日々の積み重ねで登録済みの索引数は実に 755 万件 (25 年 3 月現在) を数えます。索引はすべてデータベース (DB) 化されており、パソコンやスマホなどの端末から DB にアクセスして探したい記事のキーワードを入力すれば極めて高い確率でヒットし、瞬時に関連記事の掲載誌・ページが分かるのです。

雑誌は新聞・テレビでは報じられない社会の裏面史やその時々風俗・流行なども映し出す「時代の鏡」です。これまで多くの出版界やマスコミ関係者が過去の雑誌にしか記されていない隠れた情報を求めて当文庫を利用され、数々の報道や出版につながってきました。

インターネット全盛の今日でも貴重な誌面情報にリアルに接することができる当文庫ならではの特性は健在です。

充実索引で「思い出探し」…あなたもご利用を

ご利用はプロに限りません。

区内の一般の方々や世田谷を訪れた方も歓迎します。世田谷まちなか観光交流協会に参加した意義もここにあります。

冒頭のようなケースでは、ぜひ来館されて受付の職員にその内容を伝え、さっそく検索端末で希望の記事を探してみましょう。初めての方でも職員の手を借りれば容易に検索できます。

4 月 1 日、地元の A 子さんが来館し、フリーワード検索で、かつて大ファンだったという「西城秀樹」さんの記事を探しました。即座に画面に表示された記事件数は、最も古い「しのび泣く母に心でわびて」(『女性セブン』1972 年 9 月 10 日号) から最新の「`西城秀樹風ステージ、と`膝スラ、で話題の演歌歌手」(『女性自身』2025 年 1 月 14 日号) までなんと 1450 件！ 「大宅式記事索引」はこれほどの充実度なのです。

A 子さんはこの中から『ヤングレディ』1973 年 4 月 16 日号掲載の「ギンギラギンの若さだけがとりえなんだ」のグラビアを選び、職員に当該誌を書庫から出させ(※①)、誌面を確認のうえグラビアのコピー(※②)を手にし、うれしそうに帰宅されました。



選んだグラビアと複写を手にするA子さん

- (※①) 大宅文庫は雑誌保存のため、通常は収蔵誌すべてを書庫内に閉架しています
- (※②) 雑誌は閲覧のほか、著作権法の範囲内で誌面の複写（有料）ができます

館内ではまた、主に近隣の皆様向けに、収蔵雑誌を活用したイベントを定期的に企画しています。25年3月には「明るい皇室展～美智子さまを中心に」を2週間にわたって開催しました。

ご成婚前後から幼いお子様に囲まれ幸せに満ちあふれた1970年ごろまでの様子を綴った、主に女性誌400冊を出展し、すべて読み放題。「ミッチーブーム」以来の美智子さまファンたちが連日来館し、写真や記事を懐かしそうにご覧になっていました。



美智子さま一色だった「明るい皇室展」

ご成婚前後から、幼いお子様に囲まれ幸せに満ちあふれた 1970 年ごろまでの主に女性誌 400 冊を出展し、すべて読み放題。「ミッチーブーム」以来の美智子さまファンたちが連日来館し、写真や記事を懐かしそうにご覧になっていました。



大宅壮一文庫は公的な支援を一切受けずに自助努力で運営する純粋な民間図書館です。建物も老朽化が目立ちます。それでも、雑誌文化を未来につなぐために世田谷の地で生き続けます。

皆さん、この「雑誌の宝庫」にお立ち寄りください。職員が丁寧にご案内いたします。必ずや雑誌の面白さ、時代に触れる醍醐味を味わい、雑誌を通していつかの思い出をたどるひと時を楽しめるはずです。



京王線八幡山駅から南へ徒歩 8 分。赤堤通りを挟んで都立松沢病院の斜め向かいにあります。※入館料（一般 500 円、65 歳以上半額）をいただいています。10 冊まで閲覧自由で追加も出来ます。詳しくは受付でおたずねください。

世田谷区八幡山 3-10-20 TEL03-3303-2000
ホームページへはこちらからどうぞ➡

